

本土の端に向かう

佐多岬は九州本土の最南端、鹿児島県の大隅半島の先端にあります。ニューデリーやカイロと同緯度の温暖な気候の中で、色鮮やかな亜熱帯性植物が豊富に生育しています。晴れた日には、隣の薩摩半島にある開聞岳や、波の向こうの種子島と屋久島が見えます。

海岸から約 50 キロメートルの沖合に、佐多岬灯台が立つ大輪島があります。佐多岬灯台は日本最古の灯台で、スコットランド人の技師、リチャード・ヘンリー・ブラントンによって設計されました。1871 年に建設されて以来、この灯台の明るい光は外国の船が日本の海岸を安全に航行するのに役立ちました。

岬の周りの曲がりくねった小道を探索したり、日本最南端の神社を訪ねたり、最初の灯台守の宿舎で歴史の一部を学ぶこともできます。石造り灯台守の宿舎は、この歴史ある灯台で最初に灯台守をつとめた日本人とイギリス人のために建てられました。